

2015.4.16  
vol.38

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品



### 巴里の屋根の下



4月16日(木)

① 10:30 ~ 12:05

② 14:00 ~ 15:35



ルネ・クレール監督がパリの下町情緒を叙情的に描き出したラブロマンス。パリの街頭で楽譜を売る青年・アルベールは、ルーマニア出身の美女・ポーラと出会い、ひと目惚れする。ある日、ひょんなことから部屋を締め出された彼女が居候することになり…。(「キネマ旬報社」データベースより)

監督：ルネ・クレール  
出演：アルベール・プレジャン / ポーラ・イルリ  
上映時間：95分  
制作年：1930年

## 映画を読む

### 『巴里の屋根の下』

『20世紀の映画監督名鑑』778.28	共同通信社
『知っておきたい映画監督 外国映画編』N778.2	キネマ旬報社
『古き良き時代の外国映画』N778.2	本吉 瑠璃夫 文芸社
『フランス映画史の誘惑』I778.2	中条 省平 集英社新書
『一秒四文字の決断 セリフから覗くフランス』N778.2	山崎 剛太郎 春秋社
『ヨーロッパ映画の旅』778.04	山村 謙一 弦書房
『シネマ今昔問答』	和田 誠 新書館
『映画は語る』778.04	淀川 長治 中央公論新社
『キネマ旬報ベストテン 85 回史 1924-2011』778.2	キネマ旬報社
『映画狂人シネマ事典』778.0	蓮実 重彦 河出書房新社
『映画狂人のあの人に会いたい』778.0	蓮実 重彦 河出書房新社
『映画放浪記 大人の映画館』N778.0	色川 武大 キネマ旬報社

## シャンソンで始まりシャンソンで終わる

今回上映の『巴里の屋根の下(1930年)』は、ルネ・クレール監督初のトーキー映画です。「シネマ・ド・リぶら」での彼の作品上映は4回目で、全映画監督中最多です。意図的に彼の作品が選択されたわけではなく、無料上映が可能な「リぶら所蔵ライブラリー」の中から、主として知名度により選択された結果ですので、1930年代～1950年代の彼の作品が、当時の日本の洋画ファンにとっても愛されていた証なのかもしれません。

とりわけトーキー映画としては、トップバッターとして日本公開された『巴里の屋根の下』の人気は相当だったようで、猪俣勝人(脚本家/監督)はその著書「世界映画名作全史(戦前編)」の中で、「…たいがいの場合、映画の主題歌はその映画がヒットした後で流行してくるのが普

通だが、この『巴里の屋根の下』の場合は、歌が先に街に流れ始め、後からその歌にひかれて映画を見にゆき、改めてまた映画と歌の良さに感動するという順序だったようだ。…『巴里の屋根の下』を見に集まった神田の学生たちで、狭い「南明座」は一杯にふくれ上がっていた。その熱気の中で息を詰めて私はそれを見終わり、青春の哀傷に堪えがたい痛みをうけてそこを出た。」と書いています。

今でこそ、無声映画とトーキーを絶妙なバランスで融合させることに成功した、映画史に残る名作との評価が定着しているこの作品ですが、巴里の下町に住む人々の日常の一コマを描いた、どちらかと言えば小品といってよいこの作品が、当時の日本の若い観客の心を深く動かしたのは、実はこの映画の主題歌の影響が大きかったことがうかがえます。

ちなみに、この主題歌は1931年(昭和6年)映画の公開とほとんど同時に、浅草オペラの大スターだった田谷力三の歌で、ビクターから発売されました。作詞は西条八十。この曲は大ヒットし、その後シャンソンのスタンダードナンバーとして歌い継がれています。

なつかしの想ひ出に さしぐむ涙  
なつかしの想ひ出に ながる涙  
マロニエ 花は咲けど 恋しの君いづこ  
巴里の屋根の下に住みて 楽しかりし昔  
燃ゆる瞳 愛の言葉 やさしかりし君よ  
鐘は鳴る 鐘は鳴る マロニエの並木みち  
巴里の空は青く晴れて 遠き夢を揺する

とてもロマンチックで切ないこの歌詞は、原詩の直訳ではなく、八十が生涯で一番楽しかったというパリ留学時代を回想しながら作ったのではないかとされています。 K.M.

「シネマ・ド・リぶら」映画上映会（第39回）



# 誓いの休暇



少年兵士の帰郷旅行を軸に、戦争の悲惨さを静かにうたい上げたチュフライ監督の名作。兵士と少女のほのかな恋。全てのエピソードが透明な宝石のような美しさをもって迫る。

監督：グリゴリー・チュフライ 脚本：ワレンチン・エジョフ／グリゴリー・チュフライ  
撮影：ウラジミール・ニコラーエフ／エラ・サヴェーリエワ 音楽：ミハイル・ジーフ  
出演：ウラジミール・イワシヨフ／ジャンナ・プロホレンコ／アントニーナ・マクシーモア  
製作：1959年 ロシア（ソ連）モノクロ 上映時間：88分 日本公開：1960年

★日 時 **5月21日（木）**

① **10:30 ~ 12:00** 開場：10:00

② **14:00 ~ 15:30** 開場：13:30

★場 所 **りぶらホール**

★定 員 **各回 280人**（入場無料・全席自由）

★主 催 **岡崎市立中央図書館  
りぶらサポータークラブ**

★問合せ **TEL：23-3114 mail：info@libra-sc.jp**

託児：500円  
（各回6名まで）  
申込みは、  
1週間前までに。





# 未成交響楽



「わが恋の終らざるごとく、この曲も終わらざるべし」

オーストリアの作曲家、フランツ・シューベルトの青春期と、彼の名曲「交響曲第8番短調《未完成》」の制作秘話を描いたラブ・ロマンス。音楽映画、楽聖映画のはしりとなった作品で、劇中のウィーン少年合唱団を使った演出は後に「野ばら」「サウンド・オブ・ミュージック」で再現されることになる。シューベルトの名曲の数々をバックに繰り広げられるプラトニックな悲恋劇は、美しくも切ない。

貧乏暮らしをしていたシューベルトは、ある日侯爵家の演奏会でピアノを弾くことに。後日、彼が家庭教師をすることになったのは、自分の演奏を笑った令嬢だった。本国ドイツでの評判は必ずしもよくなかったようだが、日本では戦前ドイツ映画の代表傑作と認められ、大ヒットした。



監督・脚本：ヴィリ・フォルスト

原作：ヴァルター・ライシュ

音楽：フランツ・シューベルト

編曲：ヴィリ・シュミット＝ゲントナー

演奏：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 / ウィーン少年合唱団 / ウィーン国立オペラ合唱団  
ギウラ・ホルファート・ジプシー楽団

出演：ハンス・ヤーライ / マルタ・エゲルト / ルイーゼ・ウルリッヒ

製作：1933年 ドイツ/オーストリア モノクロ 上映時間：88分

★日時 **6月18日（木）**

① **10:30 ~ 12:00** 開場：10:00

② **14:00 ~ 15:30** 開場：13:30

★場所 **りぶらホール**

★定員 **各回280人**（入場無料・全席自由）

★主催 **岡崎市立中央図書館  
りぶらサポータークラブ**

★問合せ **TEL：23-3114 mail：info@libra-sc.jp**

託児：500円  
（各回6名まで）  
申込みは、  
1週間前までに。



# インフォメーション

## 『フラガール』感想

- ・この映画4回目ですが、毎回感動します。笑いあり、涙あり、最高です。最後の踊りも3か月の特訓なのにプロ並みの踊りでした。涙がいっぱい出ました。
- ・笑い涙のサクセスストーリーに感動しました。無縁社会と言われる現代ではない、人々との暖かいきずなが素晴らしかったです。
- ・よい映画の一つに涙、涙、涙あり！
- ・思わず踊ってしまいそうでした。
- ・心の踊りに感動と共に、努力の姿に感動です。
- ・しんけんにすれば心を動かすのだと思いました。
- ・頑張る姿、映画はいいですね。
- ・感動しました。私も頑張る楽しい人生を送ります。
- ・オレは今、モウレツに感動している。
- ・感動感動、泣けた、最高でした。ありがとう。
- ・大変感動しました。久しぶりでした。
- ・久しぶりに良い映画を観ました。
- ・今日の映画は久しぶり涙が出ました。
- ・これ以上流せぬほど涙をこぼしました。出演者もさすがプロですね。
- ・泣けちゃうよ いいなー！
- ・その時代を思い出して泣けて来ました。
- ・最高の映画でした。泣けましたよ！！
- ・日本映画健在で一す！
- ・久しぶりに映画を観た。そんな気持ちになりました。
- ・もう何度も見たけど大画面で迫力が違いました。有難うございました。
- ・予想よりとても良かった。またLibraで鑑賞したく存じます。
- ・とても良かった。これからも観に来たいです。

※このほか「感動した」「良かった」「ありがとう」「泣けた」等の一口コメントが10通ありました。

## サロン・ド・シネマ

場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。  
映画の上映前にご利用ください。

また、午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

## 今後の上映予定（毎回木曜日）

- 8月 6日 ★『遠い空の向こうに』
- 9月 17日 『地下室のメロディー』
- 10月 15日 ★『エデンの東』
- 12月 17日 『群衆』
- 1月 21日 『トップ・ハット』
- 2月 18日 『雨の朝パリに死す』

※ 開催日及び上映作品は、変更になる場合があります。  
※ ★はレンタル作品です。

5/24（日）の  
総会&フォーラムにも  
ご参加下さい！



## 「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター 受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円（各回6名まで）  
申込みは、1週間前までに  
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 070-5333-1842